

おっしやい

「おっしやい」はよそから来た芸者が、若衆のからかい言葉が理解できず「もう一度おっしやって」と聞き返した「おっしやって」という言葉が都会的に聞こえ、若衆にもてはやされて、これが題名になったという説もあります。

また、還御行列が和田町の詰め所を出立した途端、和田町の若衆にお神輿をさらわれたため、還御が執行できず、年番は、行列の各町に一時解散を通達し、引き上げました。

程経て、各町相談の上、祭礼続行を促す使者を年番五町目祭典事務所に寄越し、祭典再開を迫りましたが、留守番の、内田初太郎、田村東之介、両氏は「協議は相当に長引きそうで、お祭りは、更に延期になるかも知れません。 ついては、各町様に対して、十日も二十日もお覚悟されるようお言付け願います」と拒否しました。

このときの冗談口がもとで、「十日も二十日もおっしやいよ」という囃子詩が生まれたとか、定かではありません。

大体即興ですので、その場で消えてしまいましたが、戦前から愛用されているものもあります。

「裸で裸足でおっしやいよ」「朝から晩までおっしやいよ」「おっしやいバケツが十三銭、安いと思ったら底抜けだ」などがあります。